
翼とトルコ石

凌二

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

翼とトルコ石

【Nコード】

N5316F

【作者名】

凌二

【あらすじ】

別れたけど逢いたい人は居ますか？いつも想ってる人はいますか？別れてしまった2人ですが、日常で、思い出す彼と彼女のそんなお話です。今も揺れる彼の想いを、書いてみました。

大阪Lover

環状15号は右折する車の列で少し渋滞していた。

カーステレオからは、彼女が選曲し作ったCDが流れていた。

彼女はたまに音楽に合わせて口ずさみながら、にこやかに、助手席に座っている。

今聞き終えたばかりの歌を

「ねえもう1回聞いていい？」

と、カーステレオに手を伸ばす。

少し動いては停まるを繰り返している渋滞に、少しあきれながらも、和やかな雰囲気で、彼もザビの部分を一緒に口ずさんでいた。

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

歌の途中で彼女が何かを言った。

「え？何？」

聞き取りづらかったので聞き直したが、少し照れたような顔をして俯きながら

「んーん」

と言いながら、ギュッと握っていた手を握りなおした。

何と言ったのかはハッキリとは判らなかったが、

流れているその歌から何となくは想像出来た。

車は相変わらず渋滞の中、優しく 大阪Lover が流れていた。

その数カ月後、彼女の携帯電話のめざまし音にセットされたその歌を、

毎朝彼女が目覚めるまで聞くとは、その時は全く想像もしていなかった……

今思えば、あの曲で毎朝 止めては鳴り、また止めてを繰り返す彼女との朝のひと時こそ

幸せな時間だったのかもしれない。

当時の彼は、そんな風には思えなかったのだろう。

自分の事なのに、ちゃんと起きれない彼女に苛立ちさえしていた。

今となつては、その歌を目覚ましで聞く事も、左側に彼女の温もりを感じながら寝ることももう無いのだろう。

街で流れる、その曲を聞きたびに、彼は思い出に浸る。

未来予想図

（ガッ、ガッ・・・、ガッ、ガッ・・・、ガッ・・・）

上手く出来ないや・・・

ルームミラーで後ろの車を見ると、彼女がケタケタと笑っている。

もう一度

（ガッ、ガッ、ガッ、ガッ・・・）

「チッ・・・」やっぱ上手くいかないや・・・

やはり、後ろの車ではケタケタとミラー越しにみてもわかるくらいに、彼女が笑っていた。

R23号の交差点で信号待ちの時だった、時計は0時を少し回った時間、深夜だというのに、国道はトラックが多い

この交差点を境に、彼女は右折、彼は左折する分かれ道だった。

その日、ドライブ中に2人で聞いていた曲を思い出し、彼が取った行動だった。

（ガッ、ガッ、ガッ、ガッ、ガッ）

上手く出来たかな？すかさずルームミラーに目をやると、やはり彼女が笑っている

すると、彼の携帯電話が鳴った。

着信音は、後ろの車の彼女だ。

「ねえ・・・クス めっちゃギコチナイんですけどぉー クス
ス」

彼女の第一声はそれだ。

「仕方ないやん・・・5回ブレーキ踏むのって、結構大変なんやで
ー」

「早く、なかなか踏めへんてえー・・・」
彼は少し不貞腐れながら言う。

「何か、ただ5回踏んでるみたいだよ？」
電話の向こうでは、まだ笑いが止まらない様子で、話している。

「・・・・・・・・・・？」

「なあ？もしかして、5回ってさぁ・・・」
彼はふと思う。

「うん??」

彼女が不思議そうに答える。

「あ・い・し・て・る だから5回なんちゃう？」
超難題の謎が解けたかのように、得意げに彼が言う。

「え？ 今までわかってなかったん？・・・」
驚きと少し呆れたような口調で彼女が言った。

「いや？5回点灯させることが2人で決めた合図だと思ってた・・・
」
わかってなかった事を照れるように彼がそう言った。

「じゃあ、どいう風に踏めば良いかわかったよね？」
彼女はそう言って、テールランプを見つめている。

(ガッ・ガッ・ガッ・ガッ・ガッ)

静かに浮かび上がるテールランプに、ぼんやりと彼女の微笑む顔が見えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5316f/>

翼とトルコ石

2010年10月17日02時34分発行